

【様式①】令和7年度 学校評価書(小・中・義・特別支援)

学校名 岐阜市立島小学校

校長名 野原 美登里

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・「学び合い」学習により、児童が自ら決定し自己有用感を味わえるような機会を増やし、将来にわたり生きる力を育む。 ・国際社会に生きるために、英語に慣れ親しみ積極的に使おうとする態度を育てる。	A	・全校の研究テーマとして授業に『学び合い』を取り入れ、3年間取り組んできたことで、児童も慣れ、一人ひとりが意見を出したたり活躍したりする場面が増え、自己肯定感を高めることができた。 ・ALTの活動や海外からの体験入学者との交流を通して、外国の文化に興味を持つ児童が増えた。	・「学び合い」では、子どもたちが楽しそうにグループで学習しており、新しい時代の学び方だと感じた。 ・学校全体の雰囲気が安定し、先生方も明るく話す姿が見られ、学校全体が明るくなつたように思う。 ・英語学習では子どもたちの話から英語の授業を楽しく受けていることが分かった。	・今後は、3年間取り組んできた『学び合い』をさらに深め、児童が互いの考えを広げ合える授業づくりを進めていく。 ・安定して明るい学校の雰囲気を、児童の挑戦する姿や学習への主体的な行動につなげていきたい。 ・英語や国際理解については、楽しく学んでいる現状を生かし、さらに児童の関心をより高めていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・保護者、地域と連携し、地域行事への参加を促しながら、児童の健全な発達と安全な生活を見守る。 ・中学校区で連絡を取りながら、あいさつ運動、ボランティア活動の推進など足並みをそろえ協力し合う。また、『生命の尊厳』の研修を行う。	B	・児童会のあいさつ運動が活発になり地域でもあいさつの声が広がってきている。 ・運動会や枝豆販売など、地域と関わる行事も定着してきたが、小学生の地域イベントへの参加は減っている。 ・中学校区の先生が集まり、『生命の尊厳』の研修を行った。	・個人差があるが、どの子も元気なあいさつができるようになっていきたい。 ・「防災訓練」「市民体育祭」など、地域の活動に児童がさらに参加できるよう学校からの働きかけを強めてほしい。 ・PTA・見守り隊・学校支援推進委員がよりスマーズに連携できる体制づくりを進めたい。	・児童会の取り組みを生かして、どのような場でも児童が元気なあいさつできるよう、あいさつの習慣化を図る。 ・岐阜市と連携させ枝豆活動を発展させ学校からの情報発信で地域と関わりを作っていく。地域行事への参加が増えるよう、学校からの働きかけを充実させる。
あたたかさと働きがいにあふれる学校づくり	・気軽にコミュニケーションが図れる職場の雰囲気を醸成し、いつも笑顔で前向きな職員集団を目指す。 ・情報の共有ではICTの活用や、顔を合わせての打ち合わせ等を大切にし、共通の課題に全職員で向かえるようにする。	A	・課題を共有し全職員で立ち向かっていけるよう日頃のコミュニケーションを大切にしている。 ・児童や保護者の側に立った考え方を常に意識する習慣を研修の中で身につける。 ・職員間でもロイロノートを活用し情報を共有する習慣が広がり共通意識をもちやすくなった。	・どの教室からも先生と児童の笑顔あるやり取りが見られ温かい気持ちになる。児童も挨拶してくれて、気持ちの良い雰囲気づくりが出来ている。	・職員が職員間、児童や保護者などのコミュニケーションを大切にし常に相手の気持ちにたてる雰囲気づくりを目指す。。 ・児童がさらに他者を大切にする姿勢を育める体制を整えていく。 ・職員が新しい校務支援システムに早く慣れて、さらに情報を共有するスキルを身に付ける。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	・教科や道徳の学習、生活指導において「生命の尊厳」について継続的に取り組み、いじめのない学校づくりを推進する。 ・問題が起きた時に児童保護者の思いを大切にし、組織的に対応し解決を図る。	A	・毎月実施している「心の授業」が定着し、児童が思いやりや命の大切さについて考える機会が増えた。 ・中学校区の先生方が集まり、いじめ問題について研修を行った。遺族の方をお招きして話を聞き、改めて「生命の尊厳」に関する教育の重要性を強く実感する機会となつた。	・思もいやり教育とは言うが、低学年の口からすら心無い言葉、汚い言葉が発せられるのを聞く。テレビやインターネットの影響かもわからないが、改めて思いやりの心を大切にする教育をお願いしたい。	・特に、低学年に見られる心ない言葉づかいへの指導を丁寧に行い、学校全体で温かい言葉と行動を大切にする風土づくりを進める。 ・「生命の尊厳」に関し本年度の研修で得た学びを指導に生かし、児童一人ひとりが命を大切にする姿勢を育む体制を整えていく。
災害、事故に対する安全性の確保	・食の安全、熱中症対策、感染症対策、交通安全等について家庭、地域との連携を密にして取り組むと共に、緊急時の教職員の共通理解、共通行動を徹底する。	B	・健康づくりとして運動会、縄跳びチャレンジなど体育的な行事が増えた。外遊び奨励により、健康な体作りに取り組むことことができた。 ・「命を守る訓練」では体育館や教室への避難などバリエーションを増やしていくなどなつた時の避難について体験的に学ぶことができた。	・「見守り隊」の声として、低学年の安全マナーが悪いという意見を聞く。学校としても安全指導を徹底してほしい。 ・特に熱中症に関して年々厳しい状況になってきていて、行事など様々な面にも影響を及ぼしている。学校でも安全に気を付けてほしい。	・登下校や校内での安全指導をより丁寧に行ったり、避難訓練と合わせて安全行動を確実に身に付けさせたりする指導を大切にすること。 ・健康づくりの活動を続けつつ、熱中症の危険が高まっていることを踏まえ、行事や日常活動で無理のない環境づくりと健康管理を徹底する。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・タブレットや大型テレビを活用し、授業の中で「学び合い」を進める。 ・家庭との連携や職員の効率的な働き方などで教育DXを推進する。 ・学校施設の定期点検を確実に実施し、適切な対処(修理・修繕等)を迅速に行い、安全な環境を整備する。	A	・大型テレビの導入により、視覚的にわかりやすい授業ができるようになった。児童もさらにロイロノートを使いこなし、デジタルとアナログ両方の良さを生かした活用ができる。 ・全体的に経年劣化が進み校舎内外で痛みが見られる。プール関係など大きな修繕が必要な箇所もある。	・タブレットや大型テレビを先生や児童が使いこなせている。教える内容がより分かりやすくなりよい。 ・スマート連絡帳でのやり取りが当たり前になってきた。 ・学校周辺の自動車マナーを全体で考えたい。	・タブレットや大型テレビの効果的な活用をさらに深め、児童の主体的な学びにつながるデジタル活用の質を高めていく。 ・校舎・プールなど老朽化が進む施設の計画的な修繕や、安全確保のため学校周辺の自動車マナー向上に向けた地域との協働体制づくりを行う。